

総務財政委員会行政調査報告

総務財政委員会委員長 吉田 健吾

1. 日程

令和7年11月12日（水）～13日（木）

2. 調査項目

- （1）東京都立産業技術高等専門学校の取組に及び品川キャンパスの概要について（東京都立産業技術高等専門学校）
- （2）東京事務所の取組について（神戸市東京事務所）
- （3）再生可能エネルギーを活用した持続可能な農業について（千葉エコ・エネルギー株式会社）

3. 委員長所見

（1）東京都立産業技術高等専門学校の取組に及び品川キャンパスの概要について

東京都立産業技術高等専門学校は、東京都が設置した東京都立工業高等専門学校と東京都立航空工業高等専門学校が2006年に合併され、その後、2008年に公立大学法人首都大学に移管された。本市の神戸市工業高等専門学校も2023年に神戸市公立大学法人に移管され、今後、独立行政法人化によって、より一層の産官学連携や充実した教育環境の整備を進めていく必要がある。

民間連携では、情報分野を中心に27社と連携が取られていたり、インターンシップの受け入れをしてもらったりされている。また、ものづくりのまち大田区にも近く、中小企業の若手技術者に向けた勉強会も実施されており、民間と双方向の交流がされていた。教育環境においては、独自のサーバーや大小様々な3Dプリンターなど、時代に応じて充実が図られており参考になった。

この他にも、従来からの特色あるコース以外にもAIスマート工学コースや医工連携教育・研究プロジェクトなど時代に応じた取り組みがされていた。また、国際交流については、シンガポールやアメリカなどに派遣するプログラムがあり、中には無償のプログラムもあり非常に充実していると感じた。神戸市立工業高等専門学校においても、民間連携、環境整備、国際交流のより一層の充実が図られる必要がある。



（2）東京事務所の取組について

本年4月にイノベーションセンターであるC I C T o k y oに移転した、東京事務所の移転後の状況を聞き取るために訪問をした。

霞が関や永田町へもアクセスがよく、従来からの職務への対応をしながら、スタートアップ企業や神戸にゆかりのある企業などとの交流も求められるようになっている。C I C T o k y oはスタートアップの集積基地と銘打たれているが、実際には成長著しい企業の出先オフィスもあり、質の高いセンター内に設置されていると感じた。

従来の国会、中央省庁対応に加えて、新しい取り組みが広がっていると感じた一方で、人員については以前とあまり変わらない状況であった。新旧業務のどちらもが浅い取り組みにならないよう、今までの業務に対して効率化や取捨選択をしていき、本市にとって有益な情報や関係企業の獲得など、未来の本市にとって重要な取り組みを期待したい。



（3）再生可能エネルギーを活用した持続可能な農業について

太陽光発電については、自然との共生が課題となっている状況を鑑みて、営農型太陽光発電の視察のために訪問した。

頭上より高い位置に太陽光パネルが設置されているため、視界にパネルが入ってこないこ

とがメリットのひとつとしてあった。様々な種類の農場があるが、太陽光パネルの高さが3mの農場では、トラクターなどの農業機械も入れることができる。しかし、一方で高さの制限があるため農業用ドローンを活用することは難しくなってしまうなど、様々なメリット・デメリットを理解することができた。日陰ができても成育に問題のない農作物もあり、農業従事者の熱中症対策や、環境配慮型社会が進展する中においては、今後、農作物の差別化のひとつとしても有用な取り組みであると感じた。

太陽光パネルを設置するにあたっては多額の投資が必要になること、また、農業機械の電動化は一部しか進んでいないことなど課題はあるものの、現在の国のエネルギー믹스目標からは太陽光発電も増やさなければならぬため、本市においても実験的な導入されてもよいと感じた。

